

栗田工業株式会社

# 2026年3月期第3四半期 決算説明会

(証券コード：6370)

2026年2月6日



## 3Q決算サマリー



### 2026年3月期 3Q実績

(前年同期比) **受注高 : + 0.5%** **売上高 : + 0.9%** **事業利益 : + 10.1%**  
通期予想に対して想定線の進捗と評価

#### 電子

- 装置、精密洗浄の売上減少により減収だが、原価率の改善により事業利益はほぼ前年同期並み
- 事業ごとに濃淡あるも通期予想に対してほぼ想定線で進捗
- 複数の大型案件の受注や工事進捗が計画される4Qは、受注高・売上高ともに高水準となる見込み

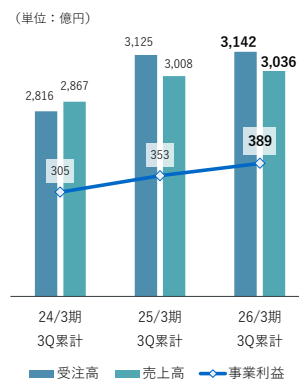
#### 一般 水処理

- 装置、メンテナンスの売上増加に加え、CSVビジネスの拡大が原価率改善に寄与し、増収増益
- 通期予想に対して想定線の進捗
- CSVビジネスも通期計画に対して着実に進捗

## 業績概要



(単位：億円)		2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	2026/3期 通期予想 (11/7発表)		
				前年同期差	前年同期比	
受注高		3,125	3,142	+ 16	+ 0.5%	4,350
売上高		3,008	3,036	+ 28	+ 0.9%	4,250
事業利益		353	389	+ 36	+ 10.1%	540
事業利益率		11.7%	12.8%	+ 1.1pp	-	12.7%
その他の収支		△ 6	14	+ 20	-	△ 5
営業利益		347	402	+ 55	+ 15.9%	535
税引前四半期利益		347	400	+ 53	+ 15.3%	525
親会社の所有者に帰属する四半期利益		242	274	+ 32	+ 13.1%	363
基本的1株当たり四半期利益 (円)		215.55	249.32	+ 33.77	+ 15.7%	330.61*
為替 レイト	USD (円)	152.6	148.7			146.0
	EUR (円)	164.8	171.8			168.1
	CNY (円)	21.2	20.8			20.3



※ 自己株式の期中平均株式数に変更となったため、通期予想（11/7発表）から変更となっています。

## 業績概要

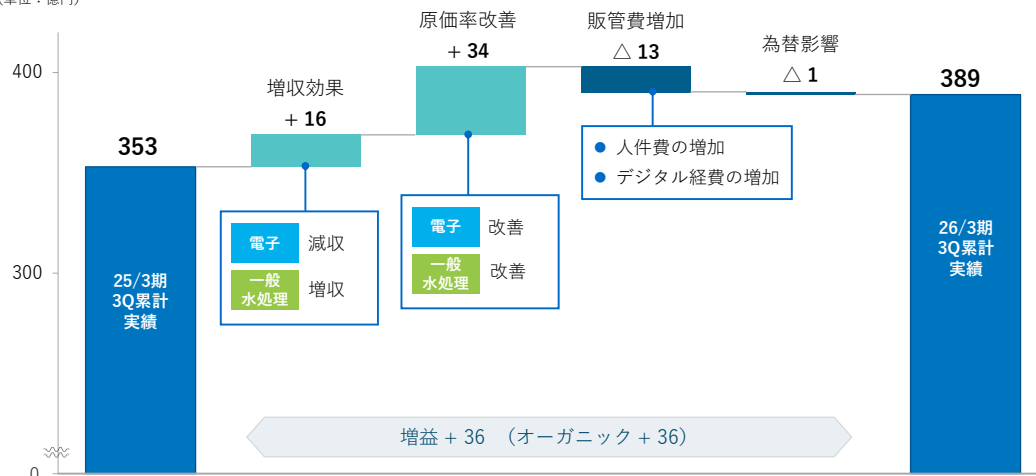
当期は、為替影響が、前期比で押し下げ要因となっているなかでも、受注高・売上高は、ともに増加し、事業利益も増益となりました。

なお、11月に発表した通期予想に対して、着実に進捗していることから、業績予想は据え置いています。

## 事業利益の増減要因 (前年同期比)



(単位：億円)



## 事業利益の増減要因 (前年同期比)

電子は減収も一般水処理がそれを上回る増収となったことに加え、電子、一般水処理ともに原価率が改善し、販管費の増加と為替影響をカバーしたことから増益となりました。

なお、9か月累計、第3四半期単独で過去最高の事業利益水準となっています。

(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	前年同期差	2026/3期 通期予想 (11/7発表)
<b>受注高</b>	<b>1,487</b>	<b>1,433</b>	<b>△ 55</b>	<b>2,130</b>
装置	620	539	△ 80	961
継続契約型サービス	402	412	+ 10	525
サービス	466	481	+ 15	644
薬品	91	93	+ 3	113
精密洗浄	218	198	△ 20	290
メンテナンス	157	189	+ 32	241
<b>売上高</b>	<b>1,400</b>	<b>1,365</b>	<b>△ 35</b>	<b>1,990</b>
装置	537	485	△ 51	812
継続契約型サービス	403	412	+ 9	524
サービス	460	468	+ 7	654
薬品	90	89	△ 2	114
精密洗浄	217	197	△ 20	290
メンテナンス	152	182	+ 29	251
<b>事業利益</b>	<b>188</b>	<b>185</b>	<b>△ 3</b>	<b>260</b>
<b>事業利益率</b>	<b>13.4%</b>	<b>13.5%</b>	<b>+ 0.1pp</b>	<b>13.1%</b>
<b>営業利益</b>	<b>189</b>	<b>195</b>	<b>+ 5</b>	<b>265</b>

## 装置

- 受注高、売上高は前年同期に中国で複数の大型案件の計上があった反動により減少

## 継続契約型サービス

- 一部案件の終了も、前期2Qからサービスを開始した水供給案件に加え、顧客工場の稼働状況の影響により増収

## 精密洗浄

- 顧客工場の稼働状況や為替影響により海外を中心に減収

## メンテナンス

- アジアを中心に全地域で増収

オーガニック増減	△ 17
為替影響	△ 18

水供給契約解除に伴う一時的な収益計上

※ 当1Qから欧米の電子装置事業の業績を一般水処理セグメントから電子セグメントに変更したことに伴い、2025年3月期実績も遡及修正しています。

## 電子セグメントの業績

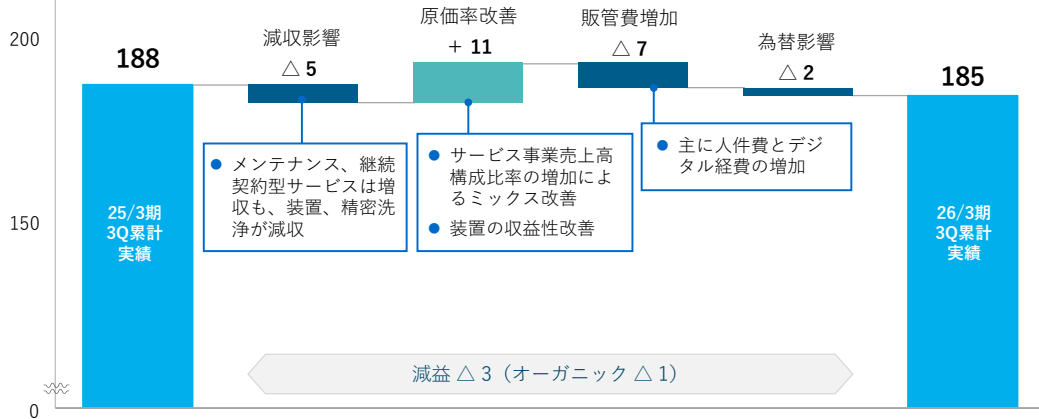
受注高、売上高ともに前年同期比で減少となりました。

しかし、受注高については、上期に韓国と中国で大型案件を獲得しているほか、第3四半期にも、韓国、台湾、北米でグローバルアカウント向けの案件を獲得しており、グローバルでの装置案件獲得という戦略の成果が着実に出てきています。

第4四半期にも複数の大型装置案件の受注を見込んでおり、通期予想を達成できる見通しです。

売上高については、装置で一部の受注済み案件で工事期間の延長が見られるほか、精密洗浄が、顧客工場の稼働状況の影響を受けていますが、継続契約型サービスやメンテナンスの進捗がよいことから、通期見通しは据え置いています。

(単位：億円)



## 電子セグメント 事業利益の増減要因（前年同期比）

原価率の改善はありましたが、減収影響や販管費の増加、為替影響もあり減益となりました。

原価率改善は、サービス事業、特にメンテナンスや継続契約型サービスの増収による事業ミックスの改善に加え、装置事業の収益性改善が進んでいることによります。

通期予想の事業利益に向けては、概ね想定線で推移していると評価しています。

(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	前年同期差	2026/3期 通期予想 (11/7発表)
<b>受注高</b>	<b>1,638</b>	<b>1,709</b>	<b>+ 71</b>	<b>2,220</b>
装置	225	239	+ 14	318
継続契約型サービス	73	85	+ 12	120
サービス	1,339	1,385	+ 46	1,781
薬品	894	901	+ 6	1,187
メンテナンス	373	385	+ 12	490
その他	72	100	+ 28	104
<b>売上高</b>	<b>1,609</b>	<b>1,671</b>	<b>+ 62</b>	<b>2,260</b>
装置	206	251	+ 45	366
継続契約型サービス	83	92	+ 10	119
サービス	1,320	1,328	+ 8	1,776
薬品	892	897	+ 5	1,183
メンテナンス	360	371	+ 11	498
その他	68	60	△ 8	95
<b>事業利益</b>	<b>165</b>	<b>204</b>	<b>+ 39</b>	<b>280</b>
<b>事業利益率</b>	<b>10.2%</b>	<b>12.2%</b>	<b>+ 2.0pp</b>	<b>12.4%</b>
<b>営業利益</b>	<b>158</b>	<b>207</b>	<b>+ 50</b>	<b>270</b>

装置

- 受注高は北米での官公需向け案件の獲得により増加
- 売上高は主に日本での工事進捗により増加

継続契約型サービス

- CSVビジネスの拡大により受注、売上ともに増加

薬品

- 為替影響を除くと受注高・売上高はほぼ前年並み
- 日本、アジアは前年同期比減収も、北米、欧州は増収

メンテナンス

- 受注高、売上高ともに主に日本で増加

その他

- 土壌浄化の大型案件獲得により受注高は増加

オーガニック増減	+ 60
為替影響	+ 2

※ 当1Qから欧米の電子装置事業の業績を一般水処理セグメントから電子セグメントに変更したことに伴い、2025年3月期実績も遡及修正しています。

## 一般水処理セグメントの業績

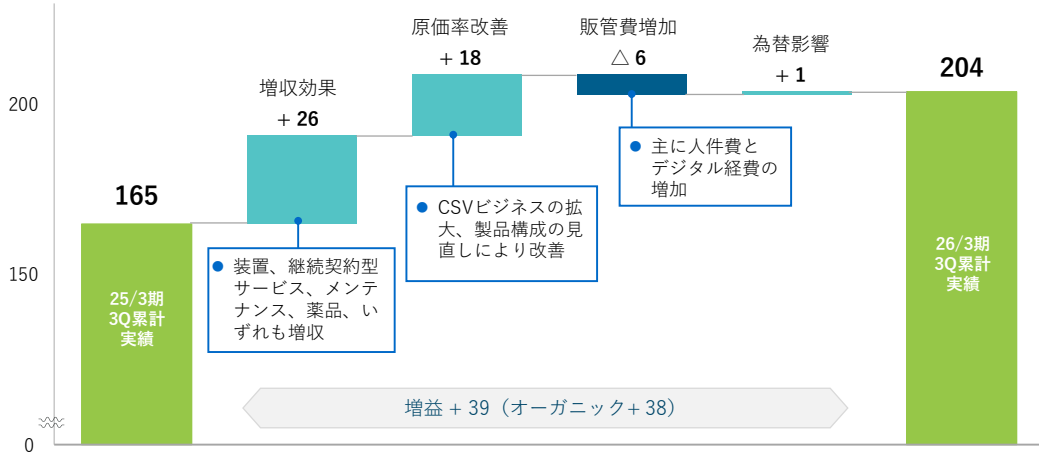
受注高、売上高ともに前年同期比で増加しました。

受注高については、各事業とも増加しており、中でも、その他における「土壌浄化」で大型案件を獲得したことが増加をけん引しました。

売上高については、日本国内における受注済み装置案件の工事進捗に加え、装置診断を起点としたメンテナンスサービス拡大の取り組みも貢献しました。また、継続契約型サービスや薬品では、CSVビジネスの拡大が堅調に推移しています。

受注高・売上高・事業利益ともに想定線で進捗しており、通期予想は据え置いています。

(単位：億円)



### 一般水処理セグメント 事業利益の増減要因 (前年同期比)

一般水処理の事業利益は、販管費の増加はあるものの、売上高の堅調な推移と、原価率の改善により増益です。

原価率については、付加価値の高いCSVビジネスの拡大に加え、薬品において収益性の低い取引を見直していることから、改善が進んでいます。

# CSVビジネス



## CSVビジネス売上高

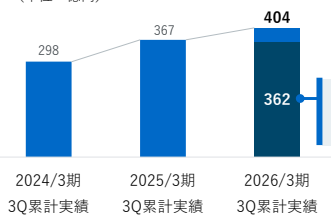
(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	2026/3期	
			前年同期差	通期予想 (11/7発表)
全社連結	367	404	+ 37	555
電子	110	86	△ 25	115
一般水処理	256	318	+ 62	440

## CSVビジネスモデル数

	2025/3末	2025/12末	差
全社連結	96	128	+ 32

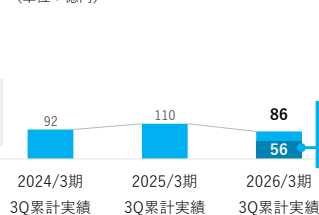
### CSVビジネス売上高(全社連結)

(単位：億円)



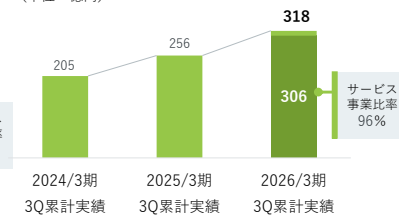
### CSVビジネス売上高(電子)

(単位：億円)



### CSVビジネス売上高(一般水処理)

(単位：億円)



## CSVビジネス

電子セグメントは、CSVビジネスから除外されたモデルの影響により、減少となっていますが、一般水処理セグメントでは、各地域で着実に売り上げを拡大しています。

なお、収益性についても、引き続き、全体よりも10%ポイント以上高い水準を確保できています。

# 地域別売上高



## 全社連結

(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	前年同期差	2026/3期 通期予想 (11/7発表)
日本	1,436	1,537	+ 101	2,086
アジア	761	631	△ 130	922
北南米	526	542	+ 15	794
EMEA	285	326	+ 42	448
<b>合計</b>	<b>3,008</b>	<b>3,036</b>	<b>+ 28</b>	<b>4,250</b>

### 電子

- 日本 (+)  
装置、継続契約型サービス、メンテナンスの増加
- アジア (-)  
前年同期に中国で大型装置の売上計上が複数あった反動

### 一般 水処理

- 日本 (+)  
装置、メンテナンス、継続契約型サービスの増加
- 北南米 (-)  
前年同期に官公需向け装置案件の売上計上が高水準であった反動

## 電子

(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	前年同期差	2026/3期 通期予想 (11/7発表)
日本	621	662	+ 41	900
アジア	585	458	△ 127	687
北南米	162	184	+ 22	301
EMEA	32	61	+ 29	102
<b>合計</b>	<b>1,400</b>	<b>1,365</b>	<b>△ 35</b>	<b>1,990</b>

## 一般 水処理

(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	前年同期差	2026/3期 通期予想 (11/7発表)
日本	815	876	+ 60	1,186
アジア	177	173	△ 3	235
北南米	364	358	△ 7	493
EMEA	253	265	+ 12	347
<b>合計</b>	<b>1,609</b>	<b>1,671</b>	<b>+ 62</b>	<b>2,260</b>

※ 当1Qから欧米の電子装置事業の業績を一般水処理セグメントから電子セグメントに変更したことに伴い、2025年3月期実績も適及修正しています。

## 地域別売上高

地域別売上高はスライドの通りです。

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費

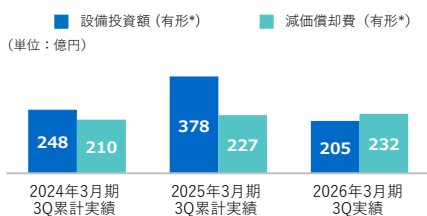


(単位：億円)	2025/3期 3Q累計実績	2026/3期 3Q累計実績	2026/3期	
			前期差	予想 (11/7発表)
設備投資額 (有形*)	378	205	△ 173	229
減価償却費 (有形*)	227	232	+ 5	325
研究開発費	61	59	△ 2	80

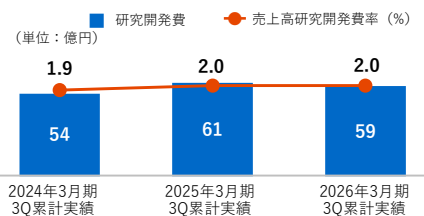
\* 使用権資産含む。

- 設備投資額は、水供給サービスおよび精密洗浄事業向けの投資が前年同期比で減少
- 減価償却費は、前期2Qから新しい水供給サービスが開始したことに伴い前年同期比で増加
- 研究開発費は、イノベーション創出を目的に増強した前年同期の水準を維持

設備投資額・減価償却費



研究開発費



設備投資額、減価償却費、研究開発費

設備投資額、減価償却費、研究開発費はスライドの通りです。



#### 将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている見通し数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している製品・サービス名およびロゴは、当社または他社の商標または登録商標です。

説明は以上です。

期末に向け、電子セグメントでは、グローバルアカウントを中心にサービス事業の起点となる装置案件の受注積み上げと、受注済み案件の工事を着実に進めてまいります。

加えて、一般水処理セグメントでは、引き続きCSVビジネスの実績を積み上げ、通期予想として掲げた事業利益水準の達成を目指します。

PSV-27計画の3年目の集大成として、結果を残すとともに、4年目へのステップアップを図るべく、各種取り組みを強化し、スピードアップも図り、PSV-27計画達成に向け、邁進してまいります。

ご清聴ありがとうございました。